



くまの議会だより

たくましく・やさしく・
のびやかに

(くまの・みらい保育園運動会の様子)

第 128 号
2023.11.1

令和5年
9月定例会

筆の都くまの



熊野町観光大使 ふでりん

主な内容

- 補正予算を審議
- 令和4年度決算を認定
- ズバリ町政を問う!

熊野町議会のホームページから、本会議の会議録や議会中継をご覧ください。

発行 ● 熊野町議会 〒731-4292 広島県安芸郡熊野町中溝一丁目1番1号 TEL(082)820-5630 FAX(082)855-4520
議会の情報は、熊野町ホームページから。 <http://www.town.kumano.hiroshima.jp> E-mail:gikai@town.kumano.lg.jp

編集 ● 議会広報特別委員会

9月定例会 議案審議

会 期
9月12日～9月22日

①熊野町で決まった12件（関連ページP2,3）

- 町長提出案件・・・7件 ●議長提出案件・・・1件
- 人事・・・1件 ●報告・・・3件
（熊野町教育委員会委員の任命）

②令和4年度決算を認定 一般会計総額101億3,476万円 （関連ページP4,5）

14人の委員で構成する決算特別委員会で議案審査を行いました。
そして、本会議において、全ての議案を全会一致で認定しました。

③一般質問 10人の議員が町政の課題などについて質しました。 （関連ページ P6～15）

9月補正予算 補正予算で取り組む主な事業

令和5年度一般会計補正予算（第3号）を可決
2億2,500万円の増額 総額 100億7,700万円に

地域福祉会館の空調機器更新 （ふれあい館等運営管理事業） 補正予算額：1,100万円

熊野町地域福祉会館の空調機器更新に係る費用の計上



▲地域福祉会館

消防団出動回数の増加 （消防団運営事業） 補正予算額：55万円

消防団員出動回数の増加に伴う出動報酬の増額



▲消防団放水訓練の様子

迷惑電話対策補助金の増額 （消費者啓発事業） 補正予算額：30万円

防犯機能付き電話機購入のための補助金の増額（30台⇒60台）



（お問合せ）生活環境課
電話：082-820-5606

林道維持管理費の増額 （林道維持管理事業） 補正予算額：200万円

令和5年6・7月の豪雨に伴う維持・修繕工事に係る費用の計上



▲修繕予定の林道雲母線（新宮）

道路改良事業費増額 （県営事業及び土木一般事業） 補正予算額：2,078万円

県が町内県道で実施する道路改良事業費の増に伴う負担金の増額など



▲県道瀬野呉線バイパス（新宮）

駐車場のり面の災害防止 （西防災交流センター管理運営事業） 補正予算額：109万円

駐車場のり面の災害防止対策費用の計上



▲修繕予定の西防災交流センター駐車場のり面

（各ページの数値については表記単位未満を四捨五入しています）

令和4年度決算を認定！

主な質疑



ふるさと納税

熊野町を応援したい方からの寄附金。
返礼品は約30事業者、300品目



▲返礼品のパン詰め合わせ

(1億6,445万円)

Q. 前年より寄附額が増えているが要因は。

A. 令和3年度まではふるさとチョイスのサイトのみの受付だったが、令和4年度は楽天ふるさと納税のサイトからも受け付けるようにしたのが要因と考える。

Q. それぞれの特徴は。

A. ふるさとチョイスは一般的なふるさと納税で、楽天ふるさと納税はポイントがつきショッピング感覚でできる特徴がある。

防災減災まちづくり会議企画運営業務

防災・減災の勉強会を6回開催



▲会議の様子

(391万円)

Q. 勉強会の参加者は特に防災の意識が高い方だと思う。防災士になってもらう取り組みも必要ではないか。

A. 防災に興味を持たれている方から防災士が誕生することはとても良い。決められた定数の範囲内で前向きに検討する。

生活習慣病予防対策事業

健康増進法に基づく
健診を実施



健診のしおり▶

(3,257万円)

Q. 対象者(60～69歳の国民健康保険加入者)に大腸がんキッドが届いたと聞いたが、県からの通達か。

A. 令和5年度健診を受けていない方に郵送をお願いした。県と連携して行っている。

気になる事業をピックアップ！

主な質疑



コンクリートブロック除去事業

危険なブロック塀に対し地震などで倒壊する前に除去してもらうため、補助金を交付



▲危険なブロック塀

(44万円)

Q. 通学路に関してはパトロール等を行い、危険な箇所の住民に事業の説明等を行うことはできないか。

A. 町広報紙に再掲載するほか、LINEの活用、また、地区懇談会等を通じて幅広い周知を検討する。

学校給食事業

希望選択制(デリバリー方式)による給食。
利用率は小学校80.0%、中学校61.3%



▲学校給食

(1億2,842万円)

Q. 材料費が高騰している。事業者への補助の内容は。

A. 昨年7月から1食15円を上限に補助している。

社会体育施設管理事業

町民グラウンドのLED照明改修工事

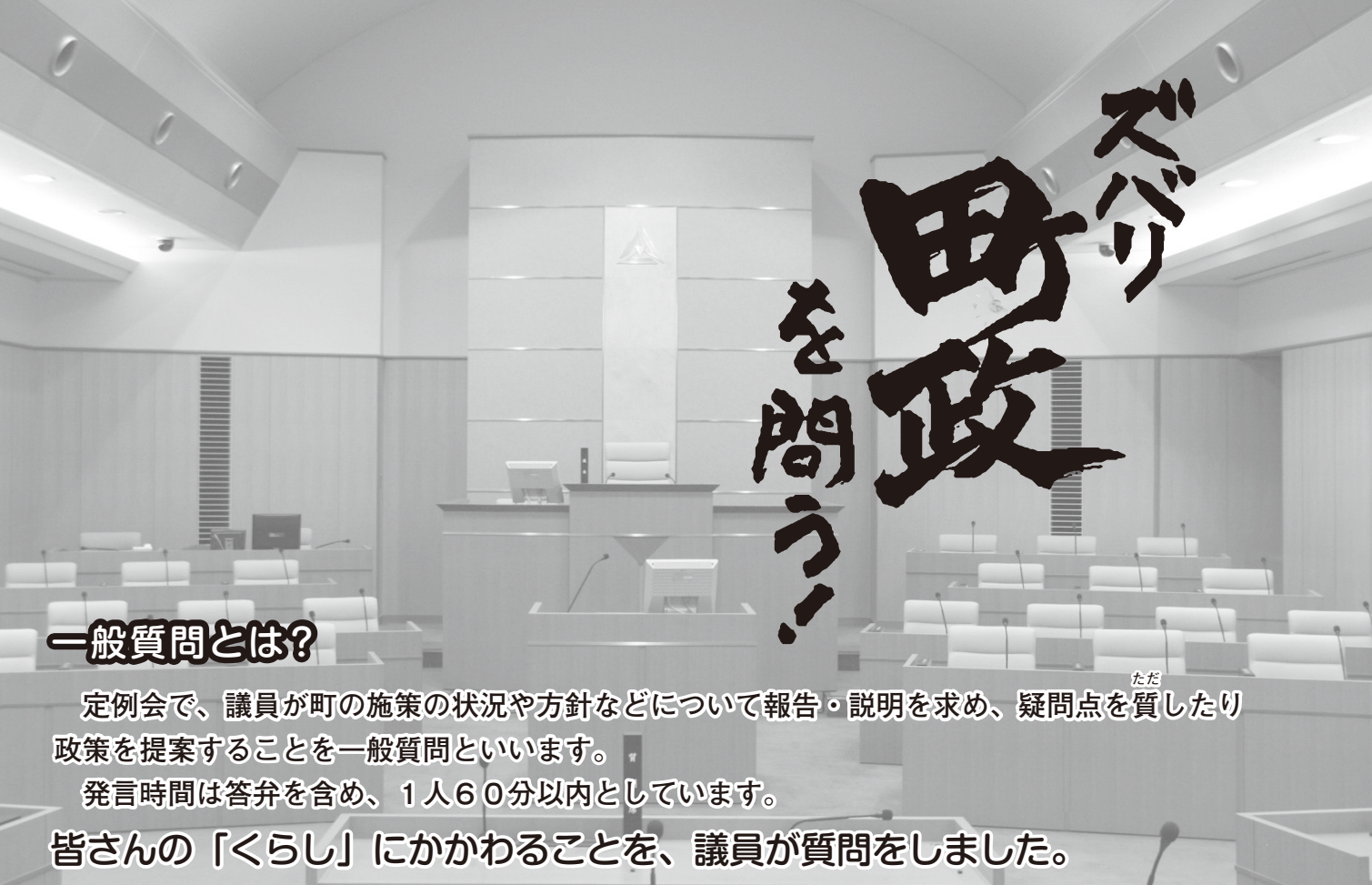


▲町民グラウンド照明

(1,793万円)

Q. 社会体育施設の使用料は、各施設で各々定額が定められているが、会員の少ないスポーツクラブにとっては、その負担が大きい。存続の有無にも関わるこの問題をどう考えるか。

A. 過度の負担にならないよう、対策を考えていく。スポーツ振興の観点を踏まえ、どうあるべきか体育協会等関係機関と協議検討する。



一般質問とは？

定例会で、議員が町の施策の状況や方針などについて報告・説明を求め、疑問点^{ただ}を質したり政策を提案することを一般質問といいます。
発言時間は答弁を含め、1人60分以内としています。
皆さんの「くらし」にかかわることを、議員が質問をしました。

ページ	質 問 者	質 問 事 項
7	藤 本 健 太 議員	1. 子ども医療費支援事業の更なる拡充は 2. ごみステーションのボックス、ネット以外の対応は
8	水 原 耕 一 議員	1. 住民からの苦情が多い空き家や空き地の対応は 2. 「食」の特産品で町おこしを
9	中 島 数 宜 議員	1. 施政方針の具体的な取り組みは 2. デジタル化推進の現状と課題は
10	竹 爪 憲 吾 議員	1. 消防・救急体制の現状と今後の計画は 2. 県道・町道の改良工事の進捗状況と今後の計画は
11	沖 田 ゆかり 議員	1. 横断歩道が渡れない歩行者の安全対策は 2. こども未来戦略方針・子育て政策は
12	世 良 将 生 議員	1. 防災士の現状は 2. 自主防災組織に防災士がいることのメリットは
13	尺 田 耕 平 議員 荒 瀧 穂 積 議員	1. 熊野町民夏祭りの継続を 1. 立地適正化計画を実現するため民間活力を
14	片 川 学 議員	1. 河川管理は適切にできているか 2. 部活動の地域移行は進んでいるのか
15	福垣内 邦 治 議員	1. 小中学生や保護者の要望に配慮した教育が行われているか

※紙面の関係により、質疑の一部のみを掲載させていただいています。
また、分かりやすい紙面にするために、趣旨が変わらない程度の編集を行っています。
なお、熊野町議会のホームページ(<http://www.town.kumano.hiroshima.jp>)から、一般質問の全ての内容を視聴することができます。

Q 子ども医療費支援事業の更なる拡充は

A 町 長

令和6年度中に、高校生までの延長、所得制限撤廃を実施したい。



藤本 健太 議員

- 【Q1】医療費の支給対象年齢が中学校卒業まで拡大されたことに対して町民の反応は。
- 【A1】概ね好意的に受け取られている。
しかし、これまで無償で受けられていた方から、ごく一部ではあるが不満の声はある。
- 【Q2】制度の運用開始からの予算の執行状況は。
- 【A2】直近8月末時点の支出状況を元に前年度と比較すると、176.7%の増となっている。
- 【Q3】県内では、医療費補助を高校卒業までを対象としている市町が14市町あるが、本町も同じようにできないか。

- 【A3】引き続き近隣市町の拡充の動向に注視する。
- 【Q4】所得制限を撤廃すべきと考えるが、所得制限で支給対象外となっている児童数は。
- 【A4】現時点で70～80人程度と把握している。
- 【Q5】支給対象年齢の拡大と所得制限の撤廃、この2点は早めに取り組むべきと考える。今後の方針は。
- 【A5】子育て世代が安心して子どもを産み、育てられる環境とするために、今後も必要な措置を講じる。

Q ごみステーションのボックス、ネット以外の対応は

A 町 長

利便性が高く他にも適切なものがあれば交付する。



- 【Q1】ごみステーションの猫やカラスへの対応は。
- 【A1】猫やカラスに荒らされることを防止するために、自治会長からの申請によりごみボックスの設置やごみ散乱防止用ネットを交付している。
- 【Q2】ごみボックスについては、古いものもあると思うが、トラブルなどの対応は。
- 【A2】利用者が対応しているが、溶接が必要など専門的な技術が必要な場合には町が修繕する方法で対応している。
- 【Q3】ごみ散乱防止用ネット型については、使用

- 者がネットの重なりなど附属的なもので散乱防止対応しているが、これらのものに対して町からの支援はできないか。
- 【A3】場所によって様々な対応が必要であり、管理する使用者の工夫をお願いしている。
- 【Q4】ボックス型は、道路管理、交通安全の観点から新設が困難であること、ネットは附属的なものが必要となることを考えると、他の市町で見かける折りたたみ式のごみボックスを活用するのはどうか。
- 【A4】折りたたみ式のごみボックスについては、前向きに考える。



水原 耕一 議員

Q 住民からの苦情が多い空き家や空き地の対応は

A 建設農林部長

所有者に対して通知などして適正な管理をお願いしている。

【Q1】

空き家の調査が5年ごとのようだが老朽空き家等は1年でかなり変わる。危険な空き家に対しては毎年の調査が必要ではないか。

【A1】

注意が必要な箇所や相談があった場合、現地に赴き確認するようにしている。

【Q2】

「空き家対策特別措置法」の一部が改正され固定資産税が6倍になる物件が拡大される法律案が決まった。そうなれば、解体や修繕しないといけない物件が増えてくる。補助金制度の新設が必要になってくるのではないか。

【A2】

持続可能なまちづくりのため重要な施策と認識している。今後調査研究していく。

【Q3】

川に沿った法面や、大木の枝が道路まで伸びた荒地など、所有者が適正な管理をしていない土地に対して、かなり条件がありハードルが高いが国が土地を引き取ってくれる「相続土地国庫帰属制度」というものがある。それらをもとに一つでも荒れた土地が無くなるよう住民の方と一緒に考える事はできないか。

【A3】

民地については行政でできることは限られている。しかし、相談があれば関係各課と連携してアドバイスも含めできる限り対応していく。



▲黒豆

Q 「食」の特産品で町おこしを

A 町 長

地域を巻き込んでの新たな「食べ物」をテーマとした名物作りに取り組んでいく。

【Q1】

町のB級グルメ品として「ふわふわ納豆焼き」と「鳥コーロー焼きそば」があるが、十分なPRはしているか。また、「ふわふわ納豆焼き」をデザインしたマンホールを役場前に設置しイベントに参加している。町に訪れて食事をしてもらうような対策を考えているか。

【A1】

B級グルメ品は観光パンフレット等で紹介し持続的なPRに努めている。また、オタフクソース主催のマンホール事業に本町も参加しラジオ番組でPRした。町内で食事していただく取り組みを考えていく。

【Q2】

黒豆も特産品の一つとして認めているようだが、まだまだ地知名度が低い。ホームページ

やインスタ等で応援はできないか。

【A2】

黒豆の素材だけでアピールをしても良さが伝わらないと思われる。料理や加工品として魅力が増すような付加価値をつけて発信できるように考えていく。

【Q3】

それならば黒豆で作る新しい料理、B級グルメコンテストの開催はできないか。

【A3】

今年度実施している「食」をテーマとしたアイデアコンテストの中で「黒豆」を含め、町内で採れた農作物を取り入れ町内の「食」が盛り上がるきっかけを作っていく。

Q 施政方針の具体的な取り組みは

A 町 長

総合計画に沿って、コンパクトなまちづくり等の策定に取り組んでいる。

【Q1】

市街化調整区域は、公共事業や開発が進んでいない。市街化区域を拡大し、開発を進める考えは。

【A1】

本町の将来推計人口は令和12年19,684人まで減少すると推計されており、将来にわたる健全な都市機能を維持するためコンパクト＋ネットワーク型の街づくりを進めていくことから現時点では拡大する計画はない。

【Q2】

コンパクトな町づくり構想は、東西10kmに及ぶ我が町の地形において適している構想と思えるか。

【A2】

インフラ等の生活基盤を維持するためは、

一定の人口密度を維持し公共施設や商業施設、医療機関などを集中させることで利便性の向上やサービスの維持が可能となるような町づくりを目指している。

【Q3】

最近ミニ団地が造成され、多くの住宅が建設されているが、表札、住居表示銘板が取り付けしていない住宅が目立つ。どのような指導をしているか。

【A3】

住居表示に関する条例も定められていることから表示板を渡す時設置のお願いをしている、今後は広報を通じて取付のお願いをしていく。



▲宅地造成

Q デジタル化推進の現状と課題は

A 住民生活部長

「行政サービスの利便性向上」など、4つの基本方針を掲げ推進している。

【Q1】

マイナンバーカード登録状況と問題点は

【A1】

8月末現在で20,766枚を交付し、県内トップの88.4%となっている。問題点は健康保険証との紐づけ誤りにより別人の資格情報を紐づけた事案等があり、本町ではマイナポイントの申込手続支援に係る紐づけ誤りが1件発生した。現在、全市町村で総点検を行っている。

【Q2】

マイナンバーカードと各種カードとの一体化が予定されているものにはどのようなものがあるか。

【A2】

運転免許証は、令和6年度末までに一体化を予定されている。また、在留カード・障害者手

帳・年金情報等との一体化も予定されている。

【Q3】

町公式ラインアプリは情報伝達として有効なツールだと思う。利用拡大に向けたPRは。

【A3】

令和4年8月にサービス開始したが徐々に利用者数が増加し、本年8月末で8,563人となっている。広報くまの等の配布物にQRコードを掲載するなどにより、利用拡大を図る。

【Q4】

先日高齢者が行方不明になる事象が発生した。位置情報ツール利用者への補助金を支給できないか。

【A4】

他市町の実施状況を参考にし、サービスの活用を検討している。





竹爪 憲吾 議員

Q 消防・救急体制の現状と今後の計画は

A 町 長

第6次熊野町総合計画の基本施策として「消防・救急体制の充実」を進めている。

【Q1】
消防車・救急車の出動回数の変化は。

【A1】
火災での消防車の出動回数は令和2年以降、1桁台で推移している。救急出動回数は令和4年度で対前年比17.5%増、搬送人員でも約10.3%増と増加傾向となっている。

【Q2】
消防団活動の現状は。

【A2】
定員157人に対し8名欠員。報酬の改定により待遇改善を行うも定員確保に至っていない。主な活動内容は6、9、11月に研修、訓練、講習を実施。12月に年末特別警戒、1月に出初式及び1、3月に訓練を実施している。また、災害時には避難の呼びかけ等に努めている。

【Q3】
欠員確保のため他市町で採用している大学生、また女性団員の募集は考えていないのか。

【A3】
現在、積極的な募集はしていない。

【Q4】
若い力や女性ならではの活躍の場があると思う。女性団員のいない自治体はあるか。

【A4】
県内では本町、大崎上島・神石高原町の3町。



▲渋滞する熊野町役場前交差点

Q 県道・町道の改良工事の進捗状況と今後の計画は

A 町 長

県道は県の道路整備計画を、町道は第6次総合計画の基本施策として推進している。

【Q1】
県道の渋滞緩和のための改良工事の計画並びに進捗状況は。

【A1】
県道矢野安浦線の熊野バイパス事業が進行中で、区間全体の道路詳細設計完了後、出来庭から県道瀬野呉線までの間において土地所有者と境界立会を進めていく予定と伺っている。また、現道対策として、阿戸別れ交差点や町民会館前交差点の改良計画があり、今年度、土地所有者との用地交渉等を進める予定であると伺っている。

【Q2】
通学路になっている町道の改良工事計画はあるのか。

【A2】
通学路交通安全プログラムに基づき抜本的な対策が必要と判断された箇所を優先的、計画的に整備を実施する。

【Q3】
熊野町役場前交差点から馬橋までの拡幅計画はないのか。

【A3】
これまでに、歩行スペースを緑色に明示する対策を実施している。道路の拡幅については、家屋等が連続する区間でもあり、事業実施には時間を要すると考えている。

Q 横断歩道が渡れない歩行者の安全対策は

A 町 長

交通安全街頭活動などで啓発している。



沖田 ゆかり 議員

【Q1】
信号機の設置されていない横断歩道では、歩行者を確認しても車両が止まらないため、子どもや高齢者が大変困っている。歩行者の安全対策を行っているのか。

【A1】
交通量の大幅な増加など大きな変化がないと信号機の設置はできないため、交通安全の啓発活動や、通学路でのボランティアの見守りなどをお願いしている。

【Q2】
地域住民からの要望が多い深原公園入口交差点については県道の工事が完了後、信号機の設置を県に要望していただきたいが。

【A2】
完成をまたず状況を注視し、警察と協議し

ながら進めていく。

【Q3】
信号機の設置されていない横断歩道に、歩行者がセンサーに手をかざせばライトが点滅し車両に注意を促す、横断者注意喚起灯の設置をしていただきたいが。

【A3】
情報収集し検討していく。



▲横断者注意喚起灯

Q こども未来戦略方針・子育て政策は

A 健康福祉部長

今後、国から示される要綱を踏まえ町として適宜対応していく。

【Q1】
国では保育人材の確保を重視され資格があっても働いていない「潜在保育士」を補助者として雇用し、復職を支援する場合に費用を補助する制度を検討されているが。

【A1】
町としても検討していきたい。

【Q2】
医療的ケア児（新生児特定集中治療室等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や、たんの吸引などの医療的ケアが日常的に必要な児童）に対し、サービスを紹介し関係機関と家族をつなぐコーディネーターの配置は。

【A2】
4名配置し、町内3事業所で活動しており県に登録している。

【Q3】
発達障がい児への支援について、障がいのある子もない子も同じ教室と一緒に学ぶインクルーシブ教育を、熊野町でも取り組んでいただきたいが。

【A3】
共生社会を目指していくことは大切だが、場を共有するだけでなく、個別最適な学びの環境をつくることが大切であると考えている。

【Q4】
ヤングケアラーへの学習支援は。

【A4】
適応指導教室の利用等を促している。





世良 将生 議員

Q 防災士の現状は

A 町 長

積極的な活動はできていない。防災士の方が集まり、活動できる環境づくりに努める。

【Q1】
本年度の防災士の募集状況と課題は。

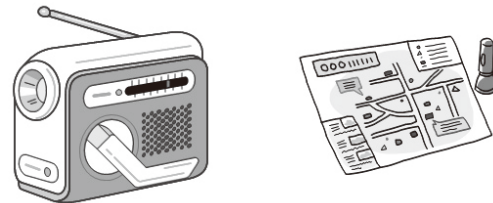
【A1】
現在自治会等からの推薦による応募は8名ある。家庭での事前学習、会場での2日間の研修、救急救命講習、試験など色々とスケジュール調整することが多く、受講に向けての調整が難しいのではないかと感じている。

【Q2】
防災士の養成を続けているが町内14自治会すべてに防災士が在籍しているか。

【A2】
西部地区の3つの自治会において、防災士の資格取得者がいないことを確認している。引き続き各自治会長には、防災士の養成講座への推薦をお願いする。

【Q3】
防災士の資格取得者は、町内に30人程度と熊野町内の正確な人数は不明ということだが、広島県内の防災士認証登録者数は把握しているか。

【A3】
8月末現在で、広島県として6,066人が認証登録されている。全国では8月末現在で26万2,166人が認証されており、8月だけでも1,600人が認定されている。



Q 自主防災組織に防災士がいることのメリットは

A 住民生活部長

防災士が地域にいることは、とても心強い。

【Q1】
広島市では任意ではあるが、防災士の資格取得後最初の3年間を目安に年に1回、定型の書式に従って活動状況を報告するように求めているそうだが、熊野町の防災士の現状は。

【A1】
現在、熊野町の防災士には活動報告は求めている。資格取得後、3年程度は防災士としての活動をお願いする程度に留まっている状況である。

【Q2】
梅雨時期の大雨等、台風シーズンで避難指示が出た後に、消防団や自主防災組織、防災士と共に会議を開催し、意見交換などを行うべきと考えるが。

【A2】
専門的な知識を持った方々との意見交換はとても有意義であると考え。これらの方々に対しての研修なども今後実施したい。

【Q3】
防災士の人数が充実すれば自治会単位の自主防災組織のような大きな組織よりも、各団地ごとの小さな地区単位で自主防災組織を作り、そこへ防災士を配属してはどうか。

【A3】
現在調整中だが、まずは自治会単位の大きな組織に対して自主防災組織を結成してもらい、その後そこから枝分かれするように団地単位や各自治会での班体制を活用するなどして、小さな組織を作っていくことができればと考える。

Q 熊野町民夏祭りの継続を

A 町 長

町民、地域のコミュニティづくりとして来年も実施したい。



尺田 耕平 議員

【Q1】
8月に開催された夏祭りは、小さな子供から子育て世代くらいまでの若い世代の来場者が多く、予想以上に活気があり、大成功だったと思う。

熊野町の大きなイベントといえば、「筆祭り」だが、これは、町内の方に対するイベントというよりも、町外の方を呼び込み、熊野町と熊野筆のPRをすることを大きな目的としたものだとは思っている。

昔は町内各所で、賑やかなお祭りもあったが、現在では規模を縮小されたり、消滅している状況であり、長い間、このような町内全域の住民を対象とした賑やかなイベントがなかった。

今回のイベント開催は、町民間の親睦、地

域の絆の観点から町の活性化を図った、地域コミュニティの醸成に大きく寄与したものと思っている。

地域振興事業として位置付け、一過性のものに止めず、毎年恒例の行事として、是非、継続していただきたいがいかがか。

【A1】
夏祭りの開催後「来年も実施していただきたい」という声が多く事業に対する評価は高かったと認識している。

財源については、企業版ふるさと納税を活用することとし、ない場合は一般のふるさと納税を充当し、規模としては今年以上のものにするのではなく、長く続くように今年と同程度で持続可能な規模で開催することを考えていきたい。

Q 立地適正化計画を実現するため民間活力を

A 建設農林部長

町の根幹となる県道矢野安浦線バイパスの沿道は民間活力を活用し町づくりをしたい。



荒瀬 穂積 議員

【Q1】
町は今、2年をかけて専門家をメンバーに、立地適正化計画を策定している。

人口減、公共交通など課題を整理し持続可能なまちづくりが求められている。

県道バイパス延伸先、呉地八幡風呂西エリアに約8,000坪の未開発地がある。

道づくりはまちづくり。実現のために民間活力を連携活用しては。

【A1】
県道矢野安浦線は町の根幹として民間活力を活用しながら、持続可能なまちづくりを推進していく。



▲県道矢野安浦線バイパスの供用開始区間



片川 学 議員

Q 河川管理は適切にできているか

A 建設農林部長

県管理、町管理の河川については適切にできている。

【Q1】

道上川については、護岸の法面について土が崩れた箇所を土で復旧しているが、何度も復旧工事に予算を計上すると、強固な護岸工事に予算を計上することと、どちらがコスト削減に繋がるか考えるべきではないか。

【A1】

災害復旧は制限がある中でコストに見合う対策をし、二、三度手間にならないよう考える。

【Q2】

雨が降るたびに河川の氾濫を心配する町民も多く、川底の浚渫^{しゅんせつ}について町内にはまだ実施されていない箇所があるが。

【A2】

緊急浚渫推進事業債などを活用し平成31年度当初予算と比較すると5倍程度の予算を

組んで執行している。

【Q3】

二河川の川角の神社の下の方では既に島ができています。早急に浚渫しなければ人災になることを危惧しているが。

【A3】

県に対し町内の堆積状況を適宜伝える。

【Q4】

管理者のいる町内河川を町民が川掃除することは不自然に感じる。参加者の減少、高齢者の熱中症等の懸念など命の危険を感じる。川掃除を廃止するべきではないか。

【A4】

河川管理は行政の責任である。道路清掃で良い、川に入らなくても良いと伝えているので来年は徹底し、実施時期も検討する。

Q 部活動の地域移行は進んでいるのか

A 教育長

国の方向性が明確でないため具体的な協議に至っていない。

【Q1】

平成25、29、30年、令和4年に中学校の運動・文化両部活動に関する、国からのガイドラインが示されているが、当町の進捗は。

【A1】

国のガイドラインをもとに、平成30年に町の運動部活動方針を定めたところである。

【Q2】

今後数年で、地域移行するとの方針だが、地域団体への協力要請や周知なされていないが。

【A2】

NPO熊野健康スポーツ振興会、校長、体育主任を集め、協議したが方向性が明確でないため、充実した協議に至っていない。

【Q3】

国の舵は既に切られた、町の進捗はない。

地域体育・文化ともに、他町に遅れることがないよう、町独自にでも、ハード・ソフト面含め早急な、環境整備を進めるべく予算付けを要望する。

【A3】

部活を含め、学校教育・社会教育の教育関係予算は可能な限り確保したいと考えている。



▲熊野東中学校ソフトテニス部

Q 小中学生や保護者の要望に配慮した教育が行われているか

A 教育長

学校・家庭・地域 一体となって取り組んでいる。



福垣内 邦治 議員

【Q1】

町内中学生のヘルメットへの記名の有無について。

【A1】

生徒、保護者等の様々な意見を参考に、適切に対応していきたい。

【Q2】

暑さ対策は急いで取り組んでもらいたい。

【A2】

教室ではエアコンと扇風機を併用している。体育館、武道館においても扇風機や送風機を活用しているが、児童生徒の体調に、より注意をはかり授業、指導をすすめていく。

【Q3】

酷暑が続いている、グラウンドでの授業をより多く水泳指導等に振り向けることはできないか。

【A3】

学習内容については、学習指導要領により定められており、水泳指導を増やすことはできないが、暑さ指数（熱中症指数）など気候状況を考慮したうえで、実施時期等を判断していきたい。



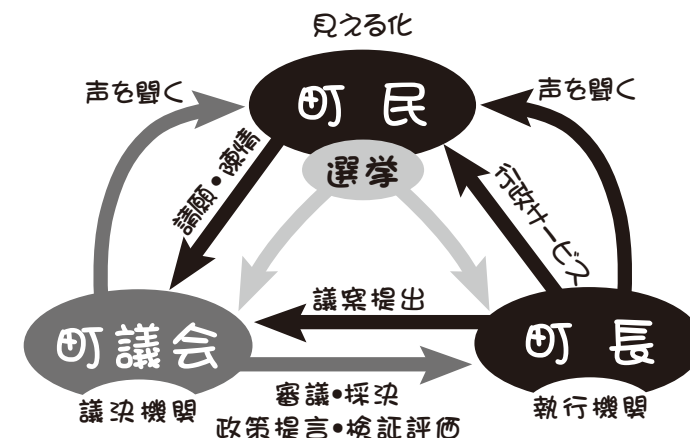
▲中学生の通学風景

議会豆知識

町議会とは？

地方議会 = 二元代表制

自治体の長と議員、地方自治の2つの担い手が、同じ町民から直接選挙で選ばれる制度です。町民の意思を、より直接的に反映する形となっています。



1. 町長と議員がともに選挙で選ばれ町民代表となります。
2. 行政と議会は対等の関係にあり、互いに協力・牽制しながら自治を行います。
3. 議会の存在により、行政の暴走抑止、町民意見の反映などを行うことができます。

不登校問題及び認知症対策

文教福祉委員会

9月27日に文教福祉委員会を開催し、教育委員会及び健康福祉部から不登校、認知症の現状について説明を受けるとともに、質疑を行いました。

1. 不登校問題について

不登校の現状などについて熊野中学校を訪問し、その取り組み状況などの報告を受けた後、意見交換を行いました。

○主な質疑

Q 熊野中学校の独自の取組があるか

A 不登校生徒が校内で安心できる場所と、個に応じた学習の支援や、将来に向けての自己実現をサポートする場所としてSSR(スペシャル・サポート・ルーム)：「れんげルーム」を設置しています。



▲レンゲルームを訪問

Q れんげルームを利用している生徒数は

A 3年生8名、2年生3名、合計11名が利用しています。

Q れんげルームではどのような取組をしているのか

A 時間の枠組みはあまり作らず、生徒の自主性に任せて教員と話し合いながら一日の計画を作るよう指導しています。

2. 認知症対策について

認知症の現状などについて高齢者支援課から報告を受けた後、認知症サポーター取得講習を受講した。その後認知症カフェ（オレンジカフェ）の視察と来訪者との意見交換を行いました。

Q 認知症サポーター有資格者数と資格を得るためには

A 平成20年から講座を開催しており、平成25年度からは中学3年生も対象とし、現在までに3,554名を養成しており、養成対象者は、地域住民、職域、学校、広域の団体、企業等幅広く要請しています。



▲認知症サポーター研修

Q 認知症カフェ開催頻度及び来店者数は

A 町内の、3ヵ所の各防災センター(東と中溝自治会館・西)で1か月に1回開設しており、それぞれ沢山の皆様にご利用いただいています。



▲認知症カフェ

今年度から新たな委員会がスタートしました。当委員会では必要な対策について町へ政策提言を行ってまいります。

手に取り読まれる議会だよりを

議会広報特別委員会

今年度の議員改選にともない、広報委員の半数が刷新されたことなどから、4年ぶりに全国町村議会議長会の広報研修会（東京 日経ホール）へ参加しました。



▲皆様に読んでいただける議会だよりの作成に努めていきます。

内容は、著作権等の法律、読んでみたくなる広報紙づくりの基礎、レイアウトの鉄則などすぐに対応できそうなことから、検討を要することなどまで、多様なものでした。

本町の議会だよりは、前号から各ページのレイアウトの変更や全ページ横書に統一するなどの取り組みにより町民が手を取り、読まれる議会だよりの作成に努めています。

今後も研修等を積み重ね、町民の皆様読んでいただける議会だよりの作成を目指します。ご期待ください。

【研修内容】

○ 広報担当者が知っておきたい法律知識

講師：弁護士 玉置 奈々子 氏

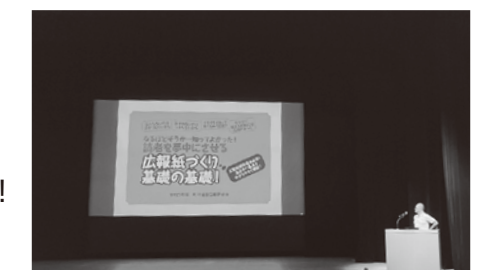
○ なるほどそうか・・・知って良かった！

読者を夢中にさせる広報紙づくりの基礎の基礎！

講師：メディアプランナー

(株) フォーチュングラフィックス

代表取締役 白木 一誠 氏



▲白木氏から、夢中にさせる広報づくりのポイントについて学びました。

○ パッと伝わる広報紙に！

やってはいけないデザイン講座

講師：グラフィックデザイナー

(公社) 日本広報協会アドバイザー 平本 久美子 氏

あ と が き

9月定例会の大きな議題は令和4年度決算認定でした。

決算認定とは、議会が1年間の決算内容を確認し確定することです。法律に適合しているか、使われ方は適正かなどを審査するだけでなく、過去の財政状況と比較して問題点を指摘し、将来に反映させるなど大切な役割が議会にはあります。

税金の使い方を決めるのが予算審議ですが、決算の審査は使われた結果を検討し今後の予算編成や行政運営の改善に役立てる大切な意義があります。

追伸：地域経済応援クーポン券(くまポン)を積極的に利用して、町内のお店に元気を届けましょう。

光本 一也

次の定例会は
12月5日(火曜日)
開会を予定しています

議会だより題字
小田原正龍さん

新企画 がんばる保育現場!!

「感謝とおもいやり」のある
「自主的な行動」のとれる子に

①くまの・みらい保育園

基本方針

- ★遊びながら考え、工夫しながらあそびを深める中で、心身の発達と生きる力を育くむ。
- ★多くの人との出会いと、さまざまな経験を重ねる中で、状況判断ができるようにしていく。
- ★一日の生活のリズムを整え、食事・排泄・着脱などの日々の繰り返しの中で、基本的生活習慣の習得を図る。

《概要》

所在地 熊野町神田15-1
児童数 215名
保育時間 7:30~18:30
(通常保育)
延長保育 7:00~ 7:30
18:30~19:30

自然豊かな園庭



↑ 萩のトンネル



↑ ビオトープ



↑ どんぐりの木

◎コーナーゾーンを作り子どもたちの興味関心のある遊びを自分で選んで遊びこめる環境を用意し、四季や天候に合わせて様々な遊びができる工夫がされています。

なかでもビオトープは大人気! メダカやドジョウ、ヤゴ、カエルなど様々な生きものが住んでいます!



☆クッキング保育

年長さんは毎日4人づつ順番で朝クッキングをしています。給食の食材を包丁で切ったり、皮をむいたり、小さいお友だちのことも考えながらクッキングしていきます。



一般開放のお知らせ

月・金曜日 10時~12時 火・水・木曜日 10時~15時

1月は誕生会も企画しています。

育児相談もしていますので是非、お気軽にあそびに来てください。



取材: 世良・藤本

たくさんの自然に囲まれ笑顔いっぱい遊ぶ子供たちがとても印象的で、元気をたくさんいただきました。